

病は気象から

心筋梗塞予報

広島県医師会は、昨年12月から、県民向けのホームページに『健康予報』を乗せている。

「県北部では、心筋梗塞に注意しましょう！」

その日の気象条件をもとに、「心筋梗塞」や「心不全」の発症のしやすさを「警戒」「注意」「普通（危険小）」の三段階で示す。

広島市の消防局管区内において、心筋梗塞では、1日の平均気温が摂氏6度未満で、平均気圧が1013ヘクトパスカル未満の日が危なかったと報告されている。

厚生労働省の死亡統計からは、季節の変わり目で発症率に大きな差が出る病気が浮き彫りにされている。

死因トップのがんは通年変化しないが、二位と三位の「心筋梗塞」と「心不全」の発症率は、季節によって異なる。

その発症率は、夏は低いが、冬は、高い値が示されている。

男性の心筋梗塞は、1月の1日の平均死亡者数を「100」とすると、6月は「60.2」、9月に「58.5」となるが、12月になると、「90.8」と再び増える。気温や、気圧で、体調が左右されるなら、日々の天気模様にも気を配る必要がある。

「気圧」や「気温」の低下で血管が収縮すれば心臓に影響すると説明されている。

「健康予報」をどう賢く役立てるか。

広島県の先達たちの取り組みに大いに興味もたれる。

「健康予報」の試みは日ごろから自分自身の「カラダ」を自分自身で気遣う予防の大切さを教えてくれる。

心臓も、もちろん、日頃からの「健康管理」が大切です。